

底びき網漁業によるアカガレイ資源管理手法の開発

1 背景・目的

アカガレイは底びき網漁業の重要魚種であるが、近年、漁獲量は減少傾向にある。そこで、アカガレイを持続的に漁獲していくために、年齢別の分布特性を踏まえた資源管理手法を開発し、漁業者に提案する。

2 技術のポイント

- (1) 耳石(図1)の鱗紋を調べることで、アカガレイの年齢が推定できる。
- (2) 3歳以下の小型アカガレイについては調査船白山丸で採集・測定し、4歳以上の大型アカガレイについては市場に水揚げされた魚体を測定することで、若齢～成熟個体までの分布や成長の状況を推定できる。
- (3) 金沢沖では、水深150～250m帯で若齢魚の割合が高い(図2)。また、2018年以降、資源量の多い世代が順調に成長している(図3)。

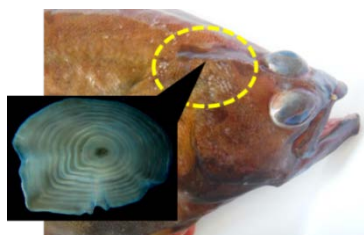


図1 アカガレイの耳石

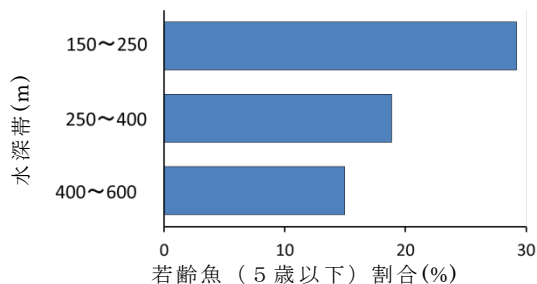


図2 金沢沖の水深帯別若齢魚割合

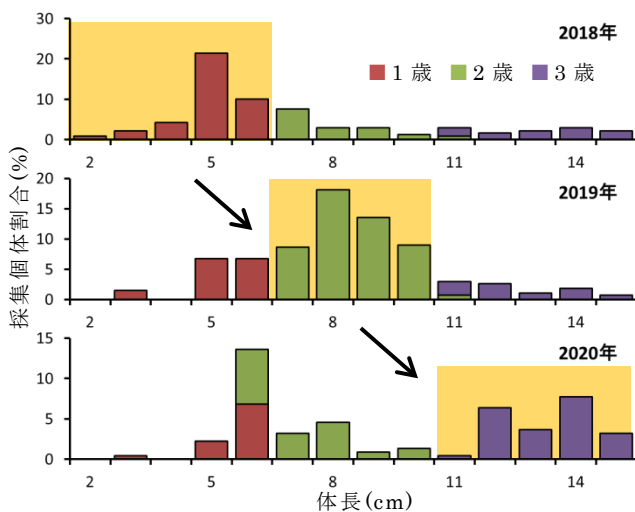


図3 調査船白山丸による年齢別採集割合

3 成果の活用と残された問題点

- (1) アカガレイを持続的に漁獲するためには、若齢魚の保護が必要であり、金沢沖では浅い水深帯で資源管理に取り組むことが効果的である。今後は漁業者に調査結果を説明し、アカガレイの分布特性に基づいた保護区設定や網目拡大などの資源管理手法を提案・協議していく。
- (2) 漁獲物調査や小型個体のモニタリングを継続し、アカガレイの成長や分布状況を追跡調査していく必要がある。